

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4371300163
法人名	有限会社 ユニゾン
事業所名	グループホーム誉ヶ丘
訪問調査日	平成 20 年 6 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4371300163
法人名	有限会社 ユニゾン
事業所名	グループホーム誉ヶ丘
所在地	熊本県宇城市豊野町山崎1728-1 (電話) 0964-45-3006

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年7月30日

【情報提供票より】(20年6月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り (2棟) 1階建て
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有() 円	(無)無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月7日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	狩場医院・宇城中央病院・近藤クリニック・吉永歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム近くには誉ヶ丘公園、県立少年の家、物産館・アグリパーク等があり、静かな中にも生活の便の良い立地条件を日常的に活用している。ホームの職員は明るく、運営者・管理者を中心にチームワークが良く、前向きに入居者・家族・地域にとってより良いホームになるよう日々取り組んでいる。入居者は、自由な雰囲気のもと思い思いに過ごしており、穏かな日常生活であることが確認できた。記録書式の独自性により分かりやすさや共有化を徹底し、自己評価・外部評価を真摯に受け止め、ソフト・ハード両面から積極的に改善する姿勢が窺え、一つひとつ精査し改善されている。今後大いなる発展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて地域との交流を密にするために、運営推進会議、家族の意見、その他関係者と相談し、全職員で検討し、夏祭りに地域住民を招待するなど、地域密着型ホームとしての役割を果たし、中学生体験受入れや小学校への手縫い雑巾寄贈などを通じて交流を深めている。また、トイレの清潔保持の指摘を受け、衛生面に配慮した床の張りかえと職員の気配りによる換気の徹底により改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で記入したものを管理者が取りまとめ、さらにミーティングで職員の意見を取り入れている。自己評価への取り組みを通して、職員間のサービス実施に対する意思確認の機会にもなり、前回の外部評価で改善課題となっていた地域との交流も改善されつつある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域との関わりを密にするために地区会長・民生委員も加わっている。会議では、利用者状況・活動状況・スタッフ状況を議題に挙げ、より良いサービスに向けて意見交換している。委員からの意見は議事録に評価・助言・要望に分類し、具体的なサービス向上につなげ、会議を積み重ねていけるように結果を次の会議で必ず報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱の設置や苦情啓発ポスターを掲示し、管理者・職員は情報収集の意味もあり積極的に話しかけている。また、運営推進会議にも多数の家族の参加があり、気軽に意見交換できる関係が構築されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣は30戸ほどの農村地帯で、夏祭り等の行事を経て着実にホームの活動が認知され、農家からの野菜等の提供や散歩時の気軽な声かけによる交流を図っている。また、地域の小学校との交流、中学生のボランティア受入れ等行い、美化運動にも参加するなど地域の一員としての活動もある。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針に“…地域と共に支えあうホームを目指す”を掲げ、介護理念の「笑顔・楽しさ・無限大」を具体化し、日々のケアに生かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、名札に理念を入れ認識しケアに当たっている。また、年度初めに運営者、管理者は、運営方針・介護理念について話しをしたり、勉強会の都度、理念に関する質問を行うなど実践に向け努めている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣は30戸ほどの農村地帯のなか、夏祭り等の行事を経て着実にホームの活動が認知され、農家からの野菜等の提供や散歩時の気軽な声かけにより交流を図っている。また、中学生の体験学習受け入れや、入居者による手縫いの雑巾500枚を小学校へ寄贈した様子がテレビ放映され、入居者、職員の自信にも繋がり交流の架け橋にもなった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で記入したものを管理者が取りまとめ、更にミーティングで職員の意見を取り入れている。自己評価への取り組みを通して、職員間のサービス実施に対する意思確認の機会にもなり、前回の外部評価で改善課題等は、玄関に設置し運営推進会議へ報告する等真摯に受け止め、運営者・管理者のリーダーシップのもと取り組んだ努力が要所に確認された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、地域との関わりを密にするために地区会長・民生委員も加わっている。会議では、利用者状況・活動状況・スタッフ状況を議題に挙げ検討し、意見交換している。委員からの意見は、ホーム独自の議事録に評価・助言・要望に分類し、具体的にサービス向上に活かし、会議の内容を積み重ねていけるように結果を次の会議で必ず報告している。	○	行政の意見を積極的に受け入れる姿勢が窺われる。毎回行政からの出席が得られるよう働きかけていただきたい不参加の家族へも議事録を送付し、共有化につとめていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護保険担当者は運営推進会議の参加や、夏祭りにも参加し手伝っていただいたり、役場に夏祭りのポスターを掲示させていただいたり良好な関係である。運営推進会議では、ホームの活動報告に関する評価と助言をいただきホーム運営に活かしている。また、管理者は、介護保険サービス連絡協議会の一員として活動している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者の写真や近況報告を請求書とともに送付している。健康状況については、受診後に電話連絡し、変化が見られたときは随時連絡し、家族の安心に繋がるように努めている。ホームページも開設している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員は情報収集のため家族に積極的に話しかけている。また、運営推進会議にも多数の家族の参加があり、寄せられた意見や苦情に対しては速やかに対応し気軽に意見交換できる関係が構築されている。玄関の意見箱の設置や苦情啓発ポスターを掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚等で3名の退職があったが、スムーズな交代が行われている。退職予防の一環として、給与を含めた待遇改善、また、休憩室の確保、勤務表の工夫を含め働きやすい環境を検討している。馴染みの職員の重要性を認識し、ユニット間の職員異動は行っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者が日常のケア・記録の指導、実務に即した教育が行われている。内部研修会は年間計画をたて毎月一回開催し、外部研修は参加者が伝達講習し全体の共有化を図り、職員の資格習得に関してはホームも支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への職員の参加を含め、管理者が連絡協議会で講義するなどのリーダーシップを発揮している。他グループホームとレクリエーションを共同で開催するなど交流に努めている。職員の交換実習を行なう意向である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に希望や状況に合わせて、家族や本人にホームを見学していただいている。本人が安心できる環境を作れるよう工夫し、入居直後は不安のないように重点的に個別の関わりを行っている。家族の不安にも配慮し、こまめに様子を伝えるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の日常の生き生きと活動されてる場面を意識しながら写真に残し、家族に毎月送付し、本人のできることを知っていただき面会時に喜びを共有している。介護計画のカンファレンスにも参加いただき、入居者のより良い生活に向けてともに考え、思いや考えを聞きケアに採り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談や、その後の介護計画作成時のカンファレンスなどの機会に家族から入居者の以前の暮らしぶりや嗜好等を聞き、本人本位の支援に向けて取り組んでいる。また、介護計画の見直しの都度アセスメントを実施し、入居者の思いや意向に沿った支援を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人の生活歴を基に家族、面会時の親類や知人からも情報を得、本人・家族・職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。職員は日々感じたことを記録に残したり、その都度書きとめ介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、六ヶ月ごとに評価・再アセスメントを行い必要に応じ介護計画の見直しを行っている。状態が変化した場合は随時家族とカンファレンスを行い計画を見直し、説明・同意を得ている。モニタリングはホーム独自の書式を使用しプランの観察記録・経過・評価を一枚にまとめたものである。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ外出・買い物・受診・理美容支援等柔軟に対応している。又、地域施設依頼によりホーム長・管理者が講話をする等ソフト面からも多機能性を発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によりかかりつけ医を設けている。24時間対応可能な協力医院による定期的な往診・健康診断と併せ歯科往診は入居者や家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期の対応について説明を行い、必要に応じ同意を得ている。かかりつけ医の協力体制や看護師の配置により対応は可能であるが、今後現状に即した定期的な学習会や検討会の実施により全職員の終末期に対応するメンタルケアも含めレベルアップに努める意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者・家族との信頼関係を大切にすることを心がけ、呼称においても家族への確認・了解を得、言葉使い・方言の使い分け、入居者との関わりは適切か？など学習会にて検討している。記録書類は詰め所にて必要時のみ開くこととしている。面会簿等の個人情報にも細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、理念に“個を大切に”と謳われているように日常生活の中で生活歴を活かしたプランを基本に本人のペース・リズムを重視した対応がなされている。職員の語りかけや入居者の表情からも日々の暮らしが窺え、家族の信頼に繋がっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	かかりつけ医のアドバイスや年一回の嗜好調査を参考に栄養士が作成した献立は、差入れ食材を利用したり、季節感・便通に配慮しできるだけ野菜を多く取り入れたメニューとしている。食材購入・調理準備・盛り付け等入居者の力量により職員と一緒にこなしている。職員も同じメニューと一緒にとりながら穏やかで楽しい食事風景である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>時間・回数は入居者の希望を取り入れ安全に配慮し新しく手すりを増やし、基本的に毎日支援を行っている。季節風呂や入浴剤使用、必要に応じてシャワー浴、寒い季節の足浴、ドライブでの温泉入浴や足湯利用など楽しい入浴支援が行われている。入浴拒否者へも記録を確認し、職員の方に応じた声かけ誘導により支援し清潔保持に努めている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>日々の生活の中に縫い物や華道・壁面製作・菜園手入れ、食事では男性入居者はテーブル拭き、女性入居者は食器洗いの役割分担をするなど楽しみながら行えるよう支援している。入居者の特技・楽しみを活かした手縫い雑巾を地元小学校への配布は地域密着型としてのホーム発信の役目を担ったといえる。</p>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候や健康状態、個々の希望に応じ、ホーム菜園の草取りや収穫、買い物兼ねた近くの物産館や公園への散歩、温泉やお楽しみ外食支援を行っている。公園でぶらんこやシーソーを童心にかえり楽しめる入居者の様子や外出先でのハプニングなど調査時の聞き取りや記録によりホームの積極的な取り組みが窺えた。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>施錠への弊害は全職員理解し、職員の気づき・見守り、近隣住民との日頃のコミュニケーションにより可能な限り玄関・居室をはじめ換気も兼ね裏戸など開けられていることが確認された。帰宅願望のある入居者へも散歩による気分転換にて対応している。</p>		
27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防訓練要項を定め、年二回昼・夜を想定した非難訓練や消火器の取り扱いを消防署立会いのもと実施している。運営推進会議や日常の交流により地区会長や近隣住民へ協力要請を行っている。</p>	○	<p>事業所内の訓練が充実していくなか、今後地域の方々の協力を得た合同訓練の実現が期待される。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医・栄養士・看護師の指導により献立を作成し、食事摂取量を記録に残し健康管理を行っている。水分は三食時の汁物やお茶・コーヒー・ジュース等個人の好みや健康状態に応じ提供している。食事形態も食材によりキザミや粥食など個々に応じた対応である。キザミの場合も原型に注意し食欲を損なわない努力をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に季節を五感で感じることができる環境の中、入り口に設けられた菜園や花が訪問しやすい雰囲気である。両ユニットの明るい共有空間に畳やソファがほど良く設置され、入居者同士や職員と談笑したり洗濯物をたんだり和やかな雰囲気である。トイレは臭い・衛生に配慮した新素材による床に改善されている。廊下の壁にはホーム内外の活動写真や作品を掲示している。	○	廊下を利用しての入居者の作品掲示においては、定期的な見直しによる季節感への配慮を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と職員の協力のもと、本人にとって居心地のよい環境作りを支援している。安全面からも居室はすっきりと整頓し、適宜な換気掃除により居心地の良さに繋げている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム誉ヶ丘
(ユニット名)	A棟
所在地 (県・市町村名)	宇城市豊野町山崎1728-1
記入者名 (管理者)	長 聡子
記入日	平成20年6月7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定の項目に、地域との関わり合いを掲げており、地域密着型サービスと位置付けられたのを機会に、事業所独自の理念を掲げている。	現状を維持し、必要により改善していく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、介護理念を書き込んだ名札を着用しており、いつでも確認できる体制作りができている。玄関や事務室内にも運営方針と介護理念を掲示しており、日常的な意識付けと実践に向けて、日々取り組んでいる。	現状を維持し、必要により改善していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは、入居時に重要事項説明と併せて、運営規定や運営方針及び介護理念の説明を行なっている。運営推進会議のメンバーには既に説明を行なっているが、地域の方への浸透はまだ不十分である。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議のメンバーを介して、老人会や地域の方への啓発を行なっている。職員一人ひとりが広報員であるとの自覚を促しながら活動してもらっている。現在、GHのホームページを作成中であり、活用していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの誉ヶ丘公園やアグリパークへ行った際は、隣近所の人と気軽に挨拶をしたり、声をかけてもらっている。また、近隣の方が、野菜や花を持って来られたり、お茶を飲みに来られることもあり、日頃から気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。	現状を維持し、必要により改善していく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の訪問や交流があったり、中学校のボランティアスクールの受入れができたことは有難い。運営推進会議の要望であった夏祭りも開催ができ、地域との関わり合いが出来た。一番の活動は、利用者手作りの雑巾を地元の小学校へ寄贈したことであり、その様子が「テレビタミン」で放送されている。	現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が培ってきた福祉に関する経験や知識を、地域の高齢者等と話し合う機会を得ることで、少しでも暮らしに役立てたいとの思いはいつも持っている。少年自然の家の研修生に、介護の話ができたことは評価できる。	○	老人会や地域住民の集まり等で、福祉に関する話しや転倒防止等の話しができれば良いと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年度、学習会等にて自己評価及び外部評価の意義を説明しており、理解は深まっている。また、評価を分析し出来る項目から全体で取り組んでおり、改善できた項目は業務に、有意義に活かされている。		現状を維持し、必要により改善していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や外部評価への取り組み状況及び入所状況や行事報告等を行ないながら、メンバーからの意見や要望及び評価を頂き、サービス向上に活かしている。また、経過報告も行なっている。会議は2ヶ月に1回、定期的に開催できている。	○	運営推進会議のメンバーから、意見や要望が、少しずつ出てきており、早めの検討と報告に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	G H連絡協議会や研修等での交流の機会があり、助言や意見交換もできている。また、介護保険サービス連絡協議会のメンバーとして携わっており、入所に関しての情報交換もできているが、ホームからの働き掛けは弱いと思われる。	○	ホーム側から積極的に訪問し、介護保険や入所相談等の情報交換が気軽に出きるような、関わり合いを作っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は学習の機会を得ており、職員へは学習会等にて学習の機会を設けているが、全員が認知するまでは至っていない。入居者に対象者がいないため、実際活用できるかは疑問である。	○	利用者がいつでも制度の活用ができるように、制度について学習の機会を増やしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、学習の機会を得ており、職員は重要性と必要性は理解できている。管理者は自宅や事業所内で虐待がないように注意を払い、虐待防止に努めている。現在まで報告及び事例はない。		現状を維持し、必要により改善していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて十分な説明を行ない、理解を得ている。契約時には再度説明を行ない、契約の締結と解約の場合の疑問に応え、不安解消を図っている。現在までトラブルは起きていない。	現状を維持し、必要により改善していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に時間は設けていないが、日常のケアの中で利用者の意見や訴えを聞く機会を得ており、カルテに記入し、職員が代弁して申し送りやカンファレンスで対応策を検討し、運営に反映させている。	○ 意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行なっていきたい。意思疎通が困難な利用者からの意見集約に重点的に取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	近況報告書を毎月家族へ送付し、利用者の暮らし振りや健康状態、職員の移動等について、個々に合せた報告をしている。金銭管理については、毎月、出納帳の確認と領収書の配布を行なっている。	現状を維持し、必要により改善していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」を玄関に設置しており、面会時や見学時に、意見、不満、苦情、要望を受け付けている。また、口頭や運営推進会議の場でも気軽に意見の受け入れを行っており、寄せられた苦情等に対しては、担当者が速やかに対応策を検討し、運営に反映して行く体制作りはできている。	○ 意見や不満、苦情がないことに胡坐をかかず、気軽に物申す雰囲気作りを常に考えていく必要がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、学習会や主任者会議にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、その場で対応策を検討し、運営に反映させている。また、意見が出にくい職員もいるため、年度に2回ほど、個人面談を実施することで全員の意見を集約している。	現状を維持し、必要により改善していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	看護師、介護福祉士、栄養士、ヘルパー等の人材を確保しており、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できる体制作りが出来ている。そのために、運営者と管理者は常に話し合いや勤務の調整に努めている。	現状を維持し、必要により改善していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット体制になってからの管理者・職員の移動は行っていない。最近離職者が続き、利用者へのダメージが心配されたが、最小限に留められた。	管理者・職員の異動は考えていないが、職員の確保については迅速に行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会が少ないと思われる。GH連絡協議会の勉強会は年間計画として参加できている。職場内教育として、毎月テーマを決め、段階に応じた教育の実施が来ている。OJTとして、日常のケアや申し送りの場面で的確な助言や指導を看護師や介護福祉士が実践している。	○ 職場内の学習機会は充実してきているが、外部研修の機会が少なく、職員のレベルアップのためには、計画的な研修やOJTが必要である。今年度も、実践者研修の申し込みを行っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、GH連絡協議会のメンバーとして、管理者や職員が勉強会や相互交流の活動に参加出来るように支援しており、職員が研修を担当する機会があったり、意見交換等もできつつある。	○ 交流の機会も少なく、限られた職員の参加が主なため、全員が活動に参加できるような勤務体制が必要である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の希望を取り入れた、負担のない勤務に努めているが、ゆっくりと休めるような休憩室の整備が遅れている。	○ 職員のストレスを吸い上げる機会を作ることが必要であり、気軽に話し合え、気軽に意見が言える人間関係を保つことに、日々努めている。休憩室については、整備する計画はあるが、時期は未定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、個々の努力や実績を活かした、役割や担当制を実施することで、各自の向上心を持って働けるように努めている。また、個人目標を掲示し、目標を持って意欲的に働けるように支援している。	現状を維持し、必要により改善していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までは、担当者が数回面談したり、自宅訪問や施設訪問することで落ち着いた状態で、本人の困っていることや不安なこと、求めていること等を本人自身から良く聴き、受け止める努力をしている。	現状を維持し、必要により改善していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までは、担当者が数回面談したり、自宅訪問や施設訪問することで落ち着いた状態で、家族等が困っていることや不安なこと、求めていること等を家族等から良く聴き、受け止める努力をしている。	現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には、担当の介護支援専門員に同行してもらい、一緒に検討している。種々のサービスの説明をする中で、本人の状態に合ったサービス提供と、本人・家族の要望が一致するように努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に数回、最低でも2回以上はホームを見学してもらい、本人の意見や見学の様子を考慮した上で、サービスの開始をしている。場合によっては、体験入所をしてもらい、ホームの雰囲気に馴染まれてからの入居を支援しており、良い結果が出ている。		現状を維持し、必要により改善していく。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にすることで、助言や温かい励ましの言葉を頂くことがあり、親子関係に似た支え合う関係である。また、料理、編物、歌、踊り等を通じて本人から学ぶことも多く、師としての関係である。		現状を維持し、必要により改善していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が、本人のありのままの状態を理解することで始まる支援や協力が多。家族が一番の援助者であることを理解し、一緒になって支えていく関係の構築はできているが、家族によって理解度や協力体制が異なるため、今後も関係作りが必要である。	○	家族の協力体制や理解度も異なるため、面会や会議の場を通して、家族とホームにより支えていくグループホームの重要性を訴えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの家族との生活が、同居か別居で支援の仕方も異なるが、ホームに入居したのを契機に、家族との面会や外出の機会を支援することで、今まで以上に関係が良くなったケースも多い。	○	ホームに入居したことで介護負担が減少し、今までにない穏やかな関係を保たれている家族が増えたり、逆に不信感が強くなったりと様々ではあるが、面会や外出の機会が減少しないように呼びかけていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や知人の訪問を受けることはあるが、本人の希望とする自宅訪問や馴染みの場所等への外出の協力を家族に呼びかけているが、限られた家族の支援のみとなっている。	○	日常のケアの中で、ふと出てくる知人や家族の方への連絡や確認等を行なっていく。外出等は家族の協力が必要となる場合が多いため、協力を呼びかけていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	良きパートナー作りを目指しており、本人の希望や相性を考慮しながら、孤立しないような関係作りが出来ている。席順や外出等での同伴も考慮しており、声を掛け合ったり、お世話される光景も見られている。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年始の挨拶状は継続しているが、どれくらいの関係維持が必要なのか難しい。		現状を維持し、必要により改善していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、重要な情報として、本人・家族より聞き取りを行なっている。本人と家族の意見が異なる時は、本人の思いや希望をを最優先としている。		現状を継続し、必要により改善していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族より生活歴や生活環境等の情報を聞き取り、ケース記録に記載している。入居後に分った情報も随時記載し、情報の共有化に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24Hアセスメントやカンファレンスにより、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態や有する力等の把握は十分に出来ており、日々の援助の中からの気づきも反映できている。		現状を維持し、必要により改善していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を介護支援専門員が情報提供し、管理者や職員と話し合ってきた課題やケアのあり方、アセスメントで出てきたニーズを踏まえてカンファレンスを行ない、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映している。	○	本人・家族の思いや意向を如何に介護計画に反映するかが難しいが、「楽しく、穏やかに」を基本に意見を取り入れていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に評価・再アセスメントを行い、必要により介護計画の見直しを行なっている。また、状態が変化した場合は、随時カンファレンスを実施し、介護計画の見直しを行ないながら、家族への説明と同意を得ている。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫を、24H対応で記録し、情報を共有している。また、介護支援経過記録と実践シートの活用により、介護計画のモニタリングと見直しに活かしている。		現状を維持し、必要により改善していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望や意見への対応として、買物、受診、散髪等の支援を行っている。他にも事業所の多機能性が活かされるケースがないか検討している。		現状を維持し、必要により改善していく。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、警察、消防、教育機関等へは、GHの在り方や利用者の状況は理解してもらい、協力体制は出来ているが、事業所からの啓発と呼びかけは十分とは言えない。	○	本人の意向や必要性の把握を十分に行ない、関係機関との協力しながら支援を行ないたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族には、入居時に説明を行っており、いつでも支援する体制作りはできているが、現在は他のサービスを利用したい旨の要望はない。		現状を維持し、必要により改善していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定例の会議に出席したり、訪問等を行ない、協力体制は出来ている。入居時に本人の意向についての相談や、入居後の情報交換は出来ているが、その他の項目についての協働は出来ていない。	○	地域包括支援センターとは、入居時の情報交換が主であり、入居後も、権利擁護や総合的かつ長期的なマネジメント等についての話し合いを持ち、相談や助言を受けていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医を設け、定期的な往診や健康診断等を実施している。歯科往診もできており、本人、事業所、かかりつけ医のより良い関係により、家族の安心感を得ている。		現状を維持し、必要により改善していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	いつでも対応出来るように、定期的な学習会や検討会等を行っていく必要がある。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期ケアの経験がない職員が多く、理解度や意識は異なる。いつでも対応出来るように、管理者や看護師を中心に、検討や準備を行ない、チームとしての支援体制を確立していく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		現状を維持し、必要により改善していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	○	意思疎通が困難な利用者への働きかけが難しいため、コミュニケーション技術を駆使して、利用者の思いや希望を一つでも多く取り入れながら、画一的な援助にならないようにしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		現状を維持し、必要により改善していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		現状を維持し、必要により改善していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		現状を維持し、必要により改善していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	利用者からの要望が少ないため、職員の積極的な呼びかけと家族へ好みを聞きながら対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立をモットーに、アセスメントを実施し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして24H体制で対応している。声かけのみの方、夜間帯のみ介助が必要な方と様々であるが、紙パンツ着用者も、定期的な声かけにより、自力で排泄出来るように支援している。		現状を維持し、必要により改善していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴施行しており、時間や回数は利用者の希望を取り入れているが、意思表示が困難な方もいるため、集中しないように援助している。午前と午後施行することで、ゆとりを持って入浴できている。夜間入浴は希望者がなく、実施していない。	○	「ゆっくり、楽しく、安全に」をモットーに実施しているが、1回でも多く入れるようにとの思いはある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間帯の個々の状態や睡眠状態を確実に申し送ることで、日中は適切な対応が出来ている。夜間不眠の場合は、日中の活動量を増やすため、散歩やレク等への参加を促し、今までの生活習慣により就寝時間が遅い方は、テレビやトランプ等のゲームにてゆったりとした時間の提供を行うことで、安心して休まれている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画の重要なニーズとして、個々の生活歴や特技を活かした、編物や華道、舞踊等の援助により、楽しみ作りや生きがい作りを支援している。また、日課の中でも、個々の「できる力」を活かした、料理や洗濯物たたみ、野菜作り等の役割を持つことで、張り合いや喜びのある意欲的な生活が支援できている。		現状を維持し、必要により改善していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の同意の元、トラブル防止対策として全面管理を行なっている。買物の機会の際には、個々の使い慣れた財布を所持し、支払いは個人単位で実施している。お金が使える喜びと支払い等の金銭感覚の維持に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境に恵まれており、個々の希望により、散歩や家庭菜園の草取り等の援助を行なっている。買物に関しては、散歩感覚で近くのアグリパークへ出かけられている。ドライブや外食等の支援もできている。	○	戸外へ出られる機会は多いが、個々の希望がいつも優先する訳ではないため、利用者の希望をこまめに汲み取ることが出来るように努めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画として、家族同伴で日帰り旅行を実施している。利用者単位では、温泉や外食、個別ではお寺の法要に行かれている。家族との外出や外食の機会もある。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者全員に、電話や手紙の援助や声かけを行なっているが、自ら電話を希望されたり、手紙を書かれる方は限られている。出来ない方への支援としては、電話を取り次いだり、代筆するケースもある。		現状を維持し、必要により改善していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の呼びかけは、毎月の近況報告書や随時、電話にてお願いしている。訪問時は、利用者・スタッフ全員で迎えており、気軽に訪問できると喜ばれている。ロビーや居室で過ごされることが多いが、ソファ等を動かし、個別に対応することもある。		現状を維持し、必要により改善していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアは、ホームの理念であり、契約書でも述べてあることから、全職員は重要なケアとしての理解が来ている。具体的な禁止行為は正しく理解できた上で、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		現状を維持し、必要により改善していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自分の意思で自由に入出りが出来ることの重要性や施錠することの弊害については、全職員が十分理解できている。各居室には鍵はなく、日中は玄関も施錠していない。徘徊者への対応としては、施錠することなく、見守りや付き添いにて対応出来ており、散歩等にて気分転換を図っている。		現状を維持し、必要により改善していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	基本的には、ロビーで一緒になって過ごされている場面が多く、台所からの様子把握が出来ている。入室されている場合は、ノックと声かけ後の訪室を原則としており、随時、所在と様子を確認している。また、屋外に出られた場合は、必ず職員が付き添っている。夜間帯は、定期巡回にて安否の確認が出来ている。	○	知らない間に離棟されているひやり・はつとが、今も発生しており、利用者の状態把握と見守りを徹底するように確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・ハサミ・カッター等は、いつでも使用できる体制作りは出来ており、レクや作業療法等の援助では、個人に合った物品の提供に努めている。利用者の中には、物品を居室に持ち帰る場合もあり、保管・管理を行ないながら対応している。また、使用後の数量確認により危険防止の対策を講じている。		現状を維持し、必要により改善していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や窒息、誤薬等は、マニュアル化して職員に配布している。個々の対応は介護計画書に沿って実施しており、学習の機会も得ている。火災防止としては、室内での禁煙、台所周辺の整理整頓や可燃物の管理を徹底している。行方不明に関しては、近隣の方への応援体制をお願いしているが、まだ実施例はない。	○	関係機関へは、入居者の情報提供を定期的に行う等の対策が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを職員に配布し、学習機会も得ている。消防署の訪問訓練による、救急法やAED操作も実施済みであるが、実務経験によるレベルの違いが見られる。	○	定期的に訓練や学習の機会を作っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練要項を定めており、年2回の昼・夜を想定した避難訓練を実施しており、消防署の指導も受けている。地域との協力体制としては、地区会長を始め、近隣の方への要請は出来ているが、合同訓練には至っていない。	○	事業所内の訓練は現状を維持していく。地域の方との協力体制を図りながら、合同訓練を行ないたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状態により起こり得る転倒や事故等のリスクについては、入居時や面会時に家族等へ説明している。リスクマネジメントやケアについては、家族の要望を取り入れながら実施できており、安心を得られている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック（日に2回）、往診（月2回）、健康診断（年2回）実施している。日々の体調の変化や異常に対しては、申し送りや援助記録に細かく記載しており、情報の共有化と対応が出来ている。		現状を維持し、必要により改善していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に説明書を貼りつけ、薬剤情報提供表もいつでも確認し理解出来るようにしている。服薬の際は、全介助、一部介助等にて異なるが、いずれも服薬の確認と服薬後の症状の変化の確認行為を実施できていたが、誤薬が発生している。	○	入居者への手渡し、口腔内挿入、薬剤を利用者の近くに置かない等の対応策を実施している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因と及ぼす影響については、学習の機会を得ており、理解できている。対策として、栄養士の指導の元、献立に反映しながら、飲食物の工夫、特に水分補給に努めている。散歩やラジオ体操、屋外活動により、活動量を増やす働きかけを積極的に行なっている。	○	排便の確認ができてにくい利用者がおられるため、確実に確認し、援助の効果を評価する必要がある。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人差があるため、声かけや一部介助にて個別に対応している。自立であっても、磨き残し等があるため、確認を行なっている。義歯の調整や歯垢除去等がある場合は、歯科往診にて対応している。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と看護師の指導の元、食事摂取量を記入し、健康管理に活用している。糖尿病や便秘症に合わせた食事形態を実施したり、刻み食や粥食も取り入れている。一人ひとりの状態により、食事介助を行なうこともある。往診の際に、かかりつけ医より指示をもらい、早めの対応をしている。		現状を維持し、必要により改善していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止マニュアルを作成し、職員に配布している。職場内にて学習する機会も設けており、職員のレベルアップと感染防止に向けた取り組みを実践している。		現状を維持し、必要により改善していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の清掃・管理、まな板・ふきん・包丁の殺菌を義務付けており、確実に施行できている。毎日、食材のチェックを行なっており、新鮮で安全な使用が出来ている。利用者・職員共に、調理前の手洗いと消毒及びエプロン・三角巾の着用を実施し、衛生管理に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家と間違えるような威圧感のない雰囲気作りに心がけており、玄関前の家庭菜園や花壇には、利用者として作り上げた花々が咲いており、家族や近隣の方も、入りやすいとの評価をもらっている。表札や看板は手作りであり、最小限度にとどめており、認識は出来ている。	○	玄関前の碎石等の除去を含め、近々、外回りや玄関周りの改修を行ない、バリアフリー化を計画している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は、採光に工夫がしてあり、明るい環境作りを行なっており、利用者に合わせて、ブラインド等にて調整している。玄関には、季節の花や利用者の作品が飾ってあり、家庭的な雰囲気作りに心がけている。	○	利用者の中には、難聴や眩しさに敏感な利用者がおられるため、席の考慮や音量等をこまめに行っていく必要がある。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室で、思いおもいに過ごされている。また、廊下に椅子を置いてあり、一人で過ごされている場面も見られる。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に呼びかけながら、本人にとって居心地の良い環境作りを支援している。使い慣れた物品や調度品の持ち込みは少ないが、入居後に好みのものを揃えられることはある。	○	持ちこみの少ない利用者へは、その人らしい環境作りが及ぼす効果を説明しながら、家族への協力を依頼しながら、居室の環境作りを行っていききたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・トイレ・浴室等は、換気扇や自然換気によりこまめに実施している。温度調節に関しては、個人差が大きいため、利用者の希望や健康状態を考慮し、職員中心にならないようにこまめな対応を行なっている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	在宅の家に近い環境作りを行っており、トイレ・浴室以外は手すりの設置は行っていない。利用者一人ひとりの状態を把握し、残存機能を活かした、安全かつ出来るだけ自立に向けた生活の支援を行っている。	○	利用者の高齢化や身体機能の低下等により、今後改善していく方向であるが、今は、現状を継続していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症レベルや見当識の低下により、個人差が大きいが、カンファレンスにより、問題点を検討し、ケアの統一を図りながら、利用者の混乱や失敗を防ぎ、自立を目指している。		現状を維持し、必要により改善していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園と花壇の管理は、利用者と職員が一緒になって草取りや水撒き等を行なっている。ベランダや中庭で、洗濯物を干される利用者や、外のベンチで過ごされたりと、思いおもいに屋外に出られる機会が多い。		現状を維持し、必要により改善していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近くには、桜の名所の誉ヶ丘公園や県立少年の家等があり、自然豊かな環境下にあります。また、アグリパークや物産館には、新鮮な野菜や数多くの食材等が豊富に取り揃えてあり、利用者の買物の場や地域住民との憩いの場となっています。その恵まれた環境の中で、経験豊かなスタッフの介護の元、地域に根ざしたホームをテーマに、運営方針「利用者の尊厳と個を大切に、寄り添うケアの実践を通して、地域と共に支え合うホームを目指す」の実践と実現に向けて、利用者・家族・職員が共に助け合いながら、日々取り組んでいます。

職員は、「一日も永く入居して欲しい、楽しく暮らして欲しい」との思いが強く、介護理念「笑顔・楽しさ・無限大」の実現に向けて、試行錯誤を繰り返しながら、利用者の思いに届くよう支援しています。

ホームの外観や優しい雰囲気の内室及び利用者と職員の笑顔が示すように、暖かく家庭的な生活を維持し、利用者・家族・職員が一緒になって、喜んだり泣いたり、時には怒ったりしながらも、最後は手を取り合って笑い合えるホームを目指しています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 誉ヶ丘
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	宇城市豊野町山崎1728-1
記入者名 (管理者)	野村 修
記入日	平成20年6月7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定の項目に、地域との関わり合いを掲げており、地域密着型サービスと位置付けられたのを機会に、事業所独自の理念を掲げている。	現状を維持し、必要により改善していく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、介護理念を書き込んだ名札を着用しており、いつでも確認できる体制作りができている。玄関や事務室内にも運営方針と介護理念を掲示しており、日常的な意識付けと実践に向けて、日々取り組んでいる。	現状を維持し、必要により改善していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは、入居時に重要事項説明と併せて、運営規定や運営方針及び介護理念の説明を行なっている。運営推進会議のメンバーには既に説明を行なっているが、地域の方への浸透はまだ不十分である。	○ 運営推進会議のメンバーを介して、老人会や地域の方への啓発を行なっている。職員一人ひとりが広報員であるとの自覚を促しながら活動してもらっている。現在、GHのホームページを作成中であり、活用していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの誉ヶ丘公園やアグリパークへ行った際は、隣近所の人と気軽に挨拶をしたり、声をかけてもらっている。建物がA棟の裏にあるため、近隣の方が訪問される機会が少ないのが残念である。	○ A棟に訪問があった場合は連絡をもらい、訪問する等の援助を行っている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の訪問や交流があったり、中学校のボランティアスクールの受入れができたことは有難い。運営推進会議の要望であった夏祭りも開催ができ、地域との関わり合いが出来た。一番の活動は、利用者手作りの雑巾を地元の小学校へ寄贈したことであり、その様子が「テレビタミン」で放送されている。	現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が培ってきた福祉に関する経験や知識を、地域の高齢者等と話し合う機会を得ることで、少しでも暮らしに役立てたいとの思いはいつも持っている。少年自然の家の研修生に、介護の話ができたことは評価できる。	○	老人会や地域住民の集まり等で、福祉に関する話しや転倒防止等の話しができれば良いと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年度、学習会等にて自己評価及び外部評価の意義を説明しており、理解は深まっている。また、評価を分析し出来る項目から全体で取り組んでおり、改善できた項目は業務に、有意義に活かされている。		現状を維持し、必要により改善していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や外部評価への取り組み状況及び入所状況や行事報告等を行ないながら、メンバーからの意見や要望及び評価を頂き、サービス向上に活かしている。また、経過報告も行なっている。会議は2ヶ月に1回、定期的に開催できている。	○	運営推進会議のメンバーから、意見や要望が、少しずつ出てきており、早めの検討と報告に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	G H連絡協議会や研修等での交流の機会があり、助言や意見交換もできている。また、介護保険サービス連絡協議会のメンバーとして携わっており、入所に関しての情報交換もできているが、ホームからの働き掛けは弱いと思われる。	○	ホーム側から積極的に訪問し、介護保険や入所相談等の情報交換が気軽に出きるような、関わり合いを作っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は学習の機会を得ており、職員へは学習会等にて学習の機会を設けているが、全員が認知するまでは至っていない。入居者に対象者がいないため、実際活用できるかは疑問である。	○	利用者がいつでも制度の活用ができるように、制度について学習の機会を増やしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、学習の機会を得ており、職員は重要性と必要性は理解できている。管理者は自宅や事業所内で虐待がないように注意を払い、虐待防止に努めている。現在まで報告及び事例はない。		現状を維持し、必要により改善していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて十分な説明を行ない、理解を得ている。契約時には再度説明を行ない、契約の締結と解約の場合の疑問に応え、不安解消を図っている。現在までトラブルは起きていない。	現状を維持し、必要により改善していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に時間は設けていないが、日常のケアの中で利用者の意見や訴えを聞く機会を得ており、カルテに記入し、職員が代弁して申し送りやカンファレンスで対応策を検討し、運営に反映させている。	○ 意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行なっていきたい。意思疎通が困難な利用者からの意見集約に重点的に取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	近況報告書を毎月家族へ送付し、利用者の暮らし振りや健康状態、職員の移動等について、個々に合せた報告をしている。金銭管理については、毎月、出納帳の確認と領収書の配布を行なっている。	現状を維持し、必要により改善していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」を玄関に設置しており、面会時や見学時に、意見、不満、苦情、要望を受け付けている。また、口頭や運営推進会議の場でも気軽に意見の受け入れを行っており、寄せられた苦情等に対しては、担当者が速やかに対応策を検討し、運営に反映して行く体制作りはできている。	○ 意見や不満、苦情がないことに胡坐をかかず、気軽に物申す雰囲気作りを常に考えていく必要がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、学習会や主任者会議にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、その場で対応策を検討し、運営に反映させている。また、意見が出にくい職員もいるため、年度に2回ほど、個人面談を実施することで全員の意見を集約している。	現状を維持し、必要により改善していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	看護師、介護福祉士、栄養士、ヘルパー等の人材を確保しており、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できる体制作りが出来ている。そのために、運営者と管理者は常に話し合いや勤務の調整に努めている。	現状を維持し、必要により改善していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット体制になってからの管理者・職員の移動は行っていない。最近離職者が続き、利用者へのダメージが心配されたが、最小限に留められた。	○ 管理者・職員の異動は考えていないが、職員の確保については迅速に行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会が少ないと思われる。GH連絡協議会の勉強会は年間計画として参加できている。職場内教育として、毎月テーマを決め、段階に応じた教育の実施が来ている。OJTとして、日常のケアや申し送りの場面で的確な助言や指導を看護師や介護福祉士が実践している。	○ 職場内の学習機会は充実してきているが、外部研修の機会が少なく、職員のレベルアップのためには、計画的な研修やOJTが必要である。今年度も、実践者研修の申し込みを行っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○ 運営者は、GH連絡協議会のメンバーとして、管理者や職員が勉強会や相互交流の活動に参加出来るように支援しており、職員が研修を担当する機会があったり、意見交換等もできつつある。	○ 交流の機会も少なく、限られた職員の参加が主なため、全員が活動に参加できるような勤務体制が必要である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○ 運営者は、職員の希望を取り入れた、負担のない勤務に努めているが、ゆっくりと休めるような休憩室の整備が遅れている。	○ 職員のストレスを吸い上げる機会を作ることが必要であり、気軽に話し合え、気軽に意見が言える人間関係を保つことに、日々努めている。休憩室については、整備する計画はあるが、時期は未定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○ 運営者は、個々の努力や実績を活かした、役割や担当制を実施することで、各自の向上心を持って働けるように努めている。また、個人目標を掲示し、目標を持って意欲的に働けるように支援している。	○ 現状を維持し、必要により改善していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○ 相談から利用までは、担当者が数回面談したり、自宅訪問や施設訪問することで落ち着いた状態で、本人の困っていることや不安なこと、求めていること等を本人自身から良く聴き、受け止める努力をしている。	○ 現状を維持し、必要により改善していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○ 相談から利用までは、担当者が数回面談したり、自宅訪問や施設訪問することで落ち着いた状態で、家族等が困っていることや不安なこと、求めていること等を家族等から良く聴き、受け止める努力をしている。	○ 現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には、担当の介護支援専門員に同行してもらい、一緒に検討している。種々のサービスの説明をする中で、本人の状態に合ったサービス提供と、本人・家族の要望が一致するように努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に数回、最低でも2回以上はホームを見学してもらい、本人の意見や見学の様子を考慮した上で、サービスの開始をしている。場合によっては、体験入所をしてもらい、ホームの雰囲気に馴染まれてからの入居を支援しており、良い結果が出ている。		現状を維持し、必要により改善していく。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の関係も、家族に近い関係になってきている。掃除や炊事に関しては学ぶことも多く、指示を受けたり怒られることも多い。愚痴を聞いたり励ましあったりと、一緒に生活することで、喜怒哀楽が共有できている。		現状を維持し、必要により改善していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族によっては、入居後も馴染めるかどうか心配されている場合があり、利用者の状態を正確伝えることで理解してもらっている。家族へは、ホーム任せにならないように、連絡を密にしながら、一緒に支えていく関係作りを行っている。	○	利用者の状態が変化した時の家族の不安を取り除くことが必要であり、日頃から家族とホームの一体感のある取り組みを行っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	介護負担が軽減したことで、今以上のより良い関係が出来たケースや、不信感が強くなったケースもあり、様々な家族関係があるが、面会や外出等をお願いしながら、より良い家族関係を築いている。	○	家族は入居したことで安心されることが多いため、入居後の家族支援の重要性を呼び掛けながら、より良い関係を築いていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人との関係は、家族の協力が必要であるが、徐々に記憶も途絶えており、関係作りが難しくなっている。	○	日常のケアの中で、ふと出てくる知人や家族の方への連絡や確認等を行なっていく。外出等は家族の協力が必要となる場合が多いため、協力を呼びかけていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	良きパートナー作りを目指しており、組み合わせは何組かできており、会話や助け合う場面もある一方、利用者の性格や相性により、孤立されているケースが見られる。	○	一人が好まれる利用者もおられるが、より良い生活のためには、パートナー作りは必要であり、積極的な声かけや援助を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年始の挨拶状は継続しているが、どれくらいの関係維持が必要なのか難しい。		現状を維持し、必要により改善していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、重要な情報として、本人・家族より聞き取りを行なっている。本人と家族の意見が異なる時は、本人の思いや希望をを最優先としている。		現状を継続し、必要により改善していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族より生活歴や生活環境等の情報を聞き取り、ケース記録に記載している。入居後に分った情報も随時記載し、情報の共有化に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族や利用者および他事業者からの情報が食い違うことが多く、24Hアセスメントやカンファレンスにより、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態や有する力等の現状を総合的に把握している。		現状を維持し、必要により改善していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を介護支援専門員が情報提供し、管理者や職員と話し合ってきた課題やケアのあり方、アセスメントで出てきたニーズを踏まえてカンファレンスを行ない、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映している。	○	本人・家族の思いや意向を如何に介護計画に反映するかが難しいが、「楽しく、穏やかに」を基本に意見を取り入れていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に評価・再アセスメントを行い、必要により介護計画の見直しを行なっている。また、状態が変化した場合は、随時カンファレンスを実施し、介護計画の見直しを行ないながら、家族への説明と同意を得ている。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫を、24H対応で記録し、情報を共有している。また、介護支援経過記録と実践シートの活用により、介護計画のモニタリングと見直しに活かしている。	○	個別記録の書き方には個人差が大きく、学習会等を通して、見直しや正確性を図っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望や意見への対応として、買物、受診、散髪等の支援を行っている。他にも事業所の多機能性が活かされるケースがないか検討している。		現状を維持し、必要により改善していく。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、警察、消防、教育機関等へは、GHの在り方や利用者の状況は理解してもらい、協力体制は出来ているが、事業所からの啓発と呼びかけは十分とは言えない。	○	本人の意向や必要性の把握を十分に行ない、関係機関との協力しながら支援を行ないたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族には、入居時に説明を行っており、いつでも支援する体制作りはできているが、現在は他のサービスを利用したい旨の要望はない。		現状を維持し、必要により改善していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定例の会議に出席したり、訪問等を行ない、協力体制は出来ている。入居時に本人の意向についての相談や、入居後の情報交換は出来ているが、その他の項目についての協働は出来ていない。	○	地域包括支援センターとは、入居時の情報交換が主であり、入居後も、権利擁護や総合的かつ長期的なマネジメント等についての話し合いを持ち、相談や助言を受けていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医を設け、定期的な往診や健康診断等を実施している。歯科往診もできており、本人、事業所、かかりつけ医のより良い関係により、家族の安心感を得ている。		現状を維持し、必要により改善していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		現状を維持し、必要により改善していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	いつでも対応出来るように、定期的な学習会や検討会等を行っていく必要がある。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期ケアの経験がない職員が多く、理解度や意識は異なる。いつでも対応出来るように、管理者や看護師を中心に、検討や準備を行ない、チームとしての支援体制を確立していく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については、「業務マニュアル」にて、重要課題として意識付けや評価を行っており、日常の業務に活かされている。個人情報の取り扱いについては、玄関に掲示したり、学習する機会を得ており、重要性を認識している。	現状を維持し、必要により改善していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を優先しながら援助しているが、意思疎通が困難な方へは、生活歴や特技・趣味等の情報により、多様な声かけを行ないながら、少しでも納得できる援助に心掛けている。	○ 意思疎通が困難な利用者への働きかけが難しいため、コミュニケーション技術を駆使して、利用者の思いや希望を一つでも多く取り入れながら、画一的な援助にならないようにしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課には、決まった時間も設定されているが、個別援助が基本であり、希望に沿った援助を行っている。本人の希望が出にくい方へは、選択肢を提供しながら自己決定を促している。	現状を維持し、必要により改善していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、利用者の希望を取り入れながら、自立支援を行っているが、季節感がなかったり、重ね着をされる利用者も多く、職員の介助が必要である。理美容は、本人の行きつけの店の利用もあるが、全んどは出張利用を活用されている。	○ 家族へは、季節に応じた衣替えをお願いしている。その際、極力着なれた衣類の持参をお願いしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物や調理準備、下膳や食器洗いと利用者が関わる作業は多く、利用者の能力や状態等を考慮しながら、個々の状態に合った作業の提供を行っている。日課となっている利用者多く、意欲的に動かれている。	現状を維持し、必要により改善していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居の際に聞き取りを行ったり、嗜好調査を実施しながら、献立に反映させているが、利用者からの要望も少なく、満足されていると思われる。	○ 利用者からの要望が少ないため、職員の積極的な呼びかけと家族へ好みを聞きながら対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立と快適性を目標にアセスメントを実施し、一人ひとりに合った排泄の援助を、24H体制で行っている。ポータブルトイレがなくなったり、紙パンツの使用量が減少する等の効果が出ている。	○	夜間帯に排泄の失敗がある利用者がおられるため、定期的な声かけと確認が必要である。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴施行しており、時間や回数は利用者の希望を取り入れている。着脱行為を拒否される利用者がおられるが、タイミングを図りながら声かけを行っている。二人で入られる利用者もおられ、楽しく入浴できている。	○	「ゆっくり、楽しく、安全に」をモットーに実施しているが、1回でも多く入れるようにとの思いはある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣の情報は収集できているが、環境の変化や精神状態等の変化にて安眠できないケースがある。確実な申し送りと対策により、日中の活動量を増やしたり、就寝時間を個別に対応している。		現状を維持し、必要により改善していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画にも重要な支援として掲載しており、利用者一人ひとりの生活歴や特技・趣味への援助には力を入れている。内容は様々であるが、得意分野は生き生きとされており、職員は活動の場を提供しながら、本人の力が発揮できるように支援している。		現状を維持し、必要により改善していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の同意の元、トラブル防止対策として全面管理を行なっている。買物の機会の際には、個々の使い慣れた財布を所持し、支払いは個人単位で実施している。お金が使える喜びと支払い等の金銭感覚の維持に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、屋外へ出られることを好まれており、散歩や買物、ドライブ等を行っている。また、草取りや土いじりが好きな方も多く、菜園の管理等を行いながら、気軽に外出できるよう支援している。	○	戸外へ出かける機会は多いが、全員で出掛けることが多いため、個々の希望が叶わない場合も考えられるため、利用者への確認が必要である。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画として、家族同伴で日帰り旅行を実施している。利用者単位では、温泉や外食、個別ではお寺の法要に行かれている。家族との外出や外食の機会もある。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者全員に、電話や手紙の援助や声かけを行なっているが、自ら電話を希望されたり、手紙を書かれる方は限られている。出来ない方への支援としては、電話を取り次いだり、代筆するケースもある。		現状を維持し、必要により改善していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の呼びかけは、毎月の近況報告書や随時、電話にてお願いしている。訪問時は、利用者・スタッフ全員で迎えており、気軽に訪問できると喜ばれている。ロビーや居室で過ごされることが多いが、ソファ等を動かし、個別に対応することもある。		現状を維持し、必要により改善していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアは、ホームの理念であり、契約書でも述べてあることから、全職員は重要なケアとしての理解が来ている。具体的な禁止行為は正しく理解できた上で、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		現状を維持し、必要により改善していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自分の意思で自由に入出りが出来ることの重要性や施錠することの弊害については、全職員が十分理解できている。各居室には鍵はなく、日中は玄関も施錠していない。徘徊者への対応としては、施錠することなく、見守りや付き添いにて対応出来ており、散歩等にて気分転換を図っている。		現状を維持し、必要により改善していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室の際の声かけとノックは原則であり、プライバシーへの配慮はできている。日中は全んどロビーで過ごされており、所在や様子確認はできやすいが、徘徊される利用者がおられる場合は付き添っている。	○	知らない間に離棟されているひやり・はつとが、今も発生しており、利用者の状態把握と見守りを徹底するように確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	レクや作業療法にて、ハサミやカッターを使用する機会は多いが、一人ひとりの状態に合わせた援助を行っている。過去に、ハサミを持ち帰られた例があったが、職員が必ず付き添うことで問題は起きていない。		現状を維持し、必要により改善していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や窒息、誤薬等は、マニュアル化して職員に配布している。個々の対応は介護計画書に沿って実施しており、学習の機会も得ている。火災防止としては、室内での禁煙、台所周辺の整理整頓や可燃物の管理を徹底している。行方不明に関しては、近隣の方への応援体制をお願いしているが、まだ実施例はない。	○	関係機関へは、入居者の情報提供を定期的に行う等の対策が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを職員に配布し、学習機会も得ている。消防署の訪問訓練による、救急法やAED操作も実施済みであるが、実務経験によるレベルの違いが見られる。	○	定期的に訓練や学習の機会を作っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練要項を定めており、年2回の昼・夜を想定した避難訓練を実施しており、消防署の指導も受けている。地域との協力体制としては、地区会長を始め、近隣の方への要請は出来ているが、合同訓練には至っていない。	○	事業所内の訓練は現状を維持していく。地域の方との協力体制を図りながら、合同訓練を行ないたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状態により起こり得る転倒や事故等のリスクについては、入居時や面会時に家族等へ説明している。リスクマネジメントやケアについては、家族の要望を取り入れながら実施できており、安心を得られている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック（日に2回）、往診（月2回）、健康診断（年2回）実施している。日々の体調の変化や異常に対しては、申し送りや援助記録に細かく記載しており、情報の共有化と対応が出来ている。		現状を維持し、必要により改善していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に説明書を貼りつけ、薬剤情報提供表もいつでも確認し理解出来るようにしている。服薬の際は、全介助、一部介助等にて異なるが、いずれも服薬の確認と服薬後の症状の変化の確認行為を実施できていたが、誤薬が発生している。	○	入居者への手渡し、口腔内挿入、薬剤を利用者の近くに置かない等の対応策を実施している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因と及ぼす影響については、学習の機会を得ており、理解できている。対策として、栄養士の指導の元、献立に反映しながら、飲食物の工夫、特に水分補給に努めている。散歩やラジオ体操、屋外活動により、活動量を増やす働きかけを積極的に行なっている。	○	排便の確認ができてにくい利用者がおられるため、確実に確認し、援助の効果を評価する必要がある。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人差があるため、声かけや一部介助にて個別に対応している。自立であっても、磨き残し等があるため、確認を行なっている。義歯の調整や歯垢除去等がある場合は、歯科往診にて対応している。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と看護師の指導の元、食事摂取量を記入し、健康管理に活用している。糖尿病や便秘症に合わせた食事形態を実施したり、刻み食や粥食も取り入れている。一人ひとりの状態により、食事介助を行なうこともある。往診の際に、かかりつけ医より指示をもらい、早めの対応をしている。		現状を維持し、必要により改善していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止マニュアルを作成し、職員に配布している。職場内にて学習する機会も設けており、職員のレベルアップと感染防止に向けた取り組みを実践している。		現状を維持し、必要により改善していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の清掃・管理、まな板・ふきん・包丁の殺菌を義務付けており、確実に施行できている。毎日、食材のチェックを行なっており、新鮮で安全な使用が出来ている。利用者・職員共に、調理前の手洗いと消毒及びエプロン・三角巾の着用を実施し、衛生管理に努めている。		現状を維持し、必要により改善していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家と間違えるような威圧感のない雰囲気作りに心がけており、玄関前には、利用者と管理している花々が咲いており、玄関にも花を飾っている。	○	玄関前の碎石等の除去を含め、近々、外回りや玄関周りの改修を行ない、バリアフリー化を計画している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーは採光に工夫がしてあり、明るい環境作りを行なっており、光の具合は利用者に合わせて、ブラインド等にて調整している。環境にも恵まれており、不快な音は全んどなく、静かな空間作りとなっている。玄関には、季節の花や利用者の作品が飾ってあり、家庭的な雰囲気作りに心がけている。	○	利用者の中には、難聴や眩しさに敏感な利用者がおられるため、席の考慮や音量等をこまめに行っていく必要がある。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を変えたり、和室を利用される方も多い。冬は廊下に椅子を置いたり、座布団を敷いて日光浴をされている。		現状を維持し、必要により改善していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に呼びかけながら、本人にとって居心地の良い環境作りを支援している。使い慣れた物品や調度品の持ち込みは少ないが、入居後に好みのものを揃えられることはある。	○	持ちこみの少ない利用者へは、その人らしい環境作りが及ぼす効果を説明しながら、家族への協力を依頼しながら、居室の環境作りを行っていききたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・トイレ・浴室等は、換気扇や自然換気によりこまめに実施している。温度調節に関しては、個人差が大きいため、利用者の希望や健康状態を考慮し、職員中心にならないようにこまめな対応を行なっている。		現状を維持し、必要により改善していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	在宅の家に近い環境作りを行っており、トイレ・浴室以外は手すりの設置は行っていない。利用者一人ひとりの状態を把握し、残存機能を活かした、安全かつ出来るだけ自立に向けた生活の支援を行っている。	○	利用者の高齢化や身体機能の低下等により、今後改善していく方向であるが、今は、現状を継続していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症レベルや見当識の低下により、個人差が大きいが、カンファレンスにより、問題点を検討し、ケアの統一を図りながら、利用者の混乱や失敗を防ぎ、自立を目指している。		現状を維持し、必要により改善していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園と花壇の管理は、利用者と職員が一緒になって草取りや水撒き等を行なっている。ベランダや中庭で、洗濯物を干される利用者や、外のベンチで過ごされたりと、思いおもいに屋外に出られる機会が多い。		現状を維持し、必要により改善していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近くには、桜の名所の誉ヶ丘公園や県立少年の家等があり、自然豊かな環境下にあります。また、アグリパークや物産館には、新鮮な野菜や数多くの食材等が豊富に取り揃えてあり、利用者の買物の場や地域住民との憩いの場となっています。その恵まれた環境の中で、経験豊かなスタッフの介護の元、地域に根ざしたホームをテーマに、運営方針「利用者の尊厳と個を大切に、寄り添うケアの実践を通して、地域と共に支え合うホームを目指す」の実践と実現に向けて、利用者・家族・職員が共に助け合いながら、日々取り組んでいます。

職員は、「一日も永く入居して欲しい、楽しく暮らして欲しい」との思いが強く、介護理念「笑顔・楽しさ・無限大」の実現に向けて、試行錯誤を繰り返しながら、利用者の思いに届くよう支援しています。

ホームの外観や優しい雰囲気の内室及び利用者と職員の笑顔が示すように、暖かく家庭的な生活を維持し、利用者・家族・職員が一緒になって、喜んだり泣いたり、時には怒ったりしながらも、最後は手を取り合って笑い合えるホームを目指しています。